

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年8月19日（月）～令和元年8月25日（日）〔令和元年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)流行性角結膜炎でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は4.09人と前週（5.57人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.78人と前週（2.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.22人と前週（2.25人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



蚊媒介感染症にはまだ注意が必要です！

デング熱は、蚊によって媒介される代表的な疾患の1つです。
今年の夏に海外でデング熱に感染し、帰国後国内で診断された患者は、タイやカンボジア、フィリピンなど東南アジアへの渡航者が多くを占めています。川崎市においても、令和元年第34週（8月19日～8月25日）に2件報告があり、いずれも東南アジアからの帰国者でした。

感染した人が蚊に刺されると、1週間ほどで蚊の体内でウイルス量が増え、その蚊に刺された人が感染する可能性があります。患者や周囲の人が蚊に刺されないための予防対策が重要です。

デング熱とは？

【感染経路】

デングウイルスを保有した蚊に刺されることで感染

【潜伏期間】

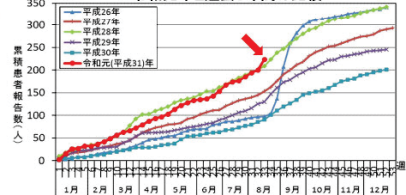
3～7日間

【主な症状】

- ・突然の発熱、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛
- ・発症3～4日後に胸部など体幹に発疹
- ※デング熱の患者が重症化した場合、出血症状やショック症状などを呈するデング出血熱を起こすことがあります。
- ※デング熱が疑われる場合は、解熱剤等の使用に十分注意し、必ず医療機関を受診しましょう。



全国におけるデング熱累積報告数の推移
—令和元年と過去5年間の比較—



予防対策

屋外での作業時は、長袖・長ズボンを着用し、皮膚が露出する部分には、ディート又はイカリジン[®]を含む虫よけ剤を使用してください。
※6か月未満の乳児にはディートは使用できないため、イカリジンを使用してください。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年8月26日（月）～令和元年9月1日（日）〔令和元年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)RSウイルス感染症でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は3.97人と前週（4.09人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.78人と前週（2.78人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.47人と前週（1.63人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



インフルエンザの地域的な流行がみられています！

現在はインフルエンザの流行シーズンではありませんが、令和元年第35週（8月26日～9月1日）のインフルエンザの定点当たり報告数は0.50人となり、前週の定点当たり0.11人から増加がみられました。川崎市内では非流行期（定点当たり1.00人を下回る）となった6月以降も、報告数は少ないものの例年と比べてかなり高いレベルで推移しています。

特に高津区では、8月下旬に小学校の学級閉鎖が報告されています。非流行期ではありますが、周辺でのインフルエンザの発生状況に注意し、予防対策に加え、感染を広げないための咳エチケットを心掛けましょう。

インフルエンザとは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

1～3日間

【主な症状】

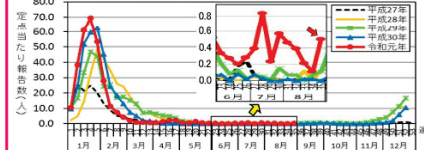
発熱（通常38℃以上）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛、咳、鼻汁など



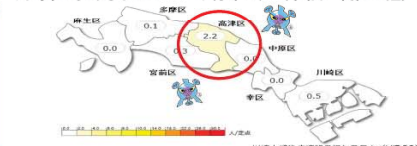
～3つの正しい咳エチケット～

- マスクを着用する
- ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う
- 上蓋の内側や袖で覆う

川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



川崎市におけるインフルエンザ分布マップ（令和元年第35週）



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
(福祉事務所・保健所支所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年9月2日（月）～令和元年9月8日（日）〔令和元年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)RSウイルス感染症でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は4.22人と前週（3.97人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.72人と前週（2.78人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.97人と前週（2.47人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

★ノロウイルス★
ノロくん



ノロウイルスによる感染性胃腸炎に注意しましょう！

川崎市では、令和元年第36週（9月2日～9月8日）の感染性胃腸炎の定点当たり患者数が3.72人となり、前週の定点当たり2.78人から増加しています。一般的に感染性胃腸炎の原因は、夏季は細菌、冬季はウイルス（特にノロウイルス）が多いとされていますが、市内では9月上旬に高津区の小学校で嘔吐や下痢を主症状とする集団発生事例が報告されており、発症者からノロウイルスが検出されています。

ノロウイルス患者の糞便や吐物には多数のウイルスが含まれ、乾いてほこりとともに舞い上がることもありますので、適切に処理し、手洗いを徹底しましょう。

～ノロウイルスの感染を拡げないために～

食器等の消毒や嘔吐物の処理の際は、塩素消毒液を適切に使用しましょう。

～塩素消毒液の作り方～

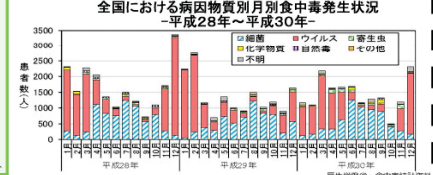
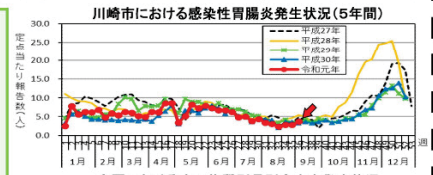
食器、カーテン等の消毒や拭き取り
（0.02%（200ppm）の塩素消毒液）

製品濃度	液の量	水の量
1.2%	5ml	3L
6%	10ml	3L
1%	60ml	3L

嘔吐物等の廃棄（袋の中で廃棄物を浸す）
（0.1%（1000ppm）の塩素消毒液）

製品濃度	液の量	水の量
1.2%	25ml	3L
6%	50ml	3L
1%	300ml	3L

厚生労働省「家庭に注意」ノロウイルスによる食中毒「パンフレット」



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年9月9日（月）～令和元年9月15日（日）〔令和元年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)RSウイルス感染症でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は4.22人と前週（4.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.92人と前週（3.72人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.47人と前週（2.97人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



長引く咳～百日咳にも御注意ください！～

百日咳は、百日咳菌を主な原因菌とする急性の気道感染症で、特有の発作性の咳を引き起こします。特にワクチン接種前の乳幼児が感染すると重症化し、死亡することもあります。

川崎市における百日咳の報告数は毎週0～6件で推移しており、令和元年第37週（9月9日～9月15日）までに計89件の報告がありました。5歳～14歳が全体の半数程度を占めており、そのほとんどに4回のワクチン接種歴がありました。成人では30歳代～40歳代の報告が多くみられました。

長引く咳がみられる場合は、結核やマイコプラズマ肺炎だけでなく百日咳にも注意しましょう。

百日咳とは？

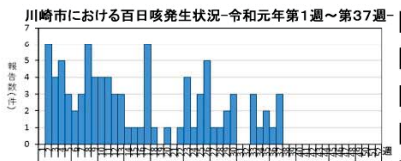
【感染経路】
咳やくしゃみ等による飛沫・接触感染

【潜伏期間】
6～20日間（通常7～10日間）

【症状】
かぜ症状で始まり、長く続く咳に加え、短く激しい咳が連続して起こり、笛の音のような音が出る咳発作といった特徴的な症状を示す。

【治療方法】
適切な抗菌薬での治療

【予防方法】
百日咳含有ワクチンの接種（DPT・IPV等）



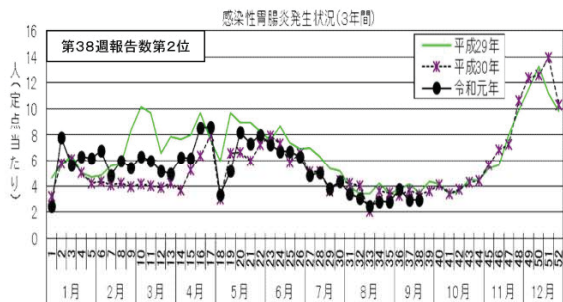
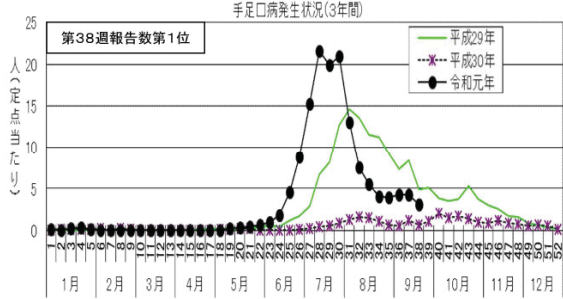
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年9月16日(月)～令和元年9月22日(日)〔令和元年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は3.08人と前週(4.22人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.94人と前週(2.92人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週(2.33人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



結核予防週間～正しい診断をより早く～

令和元年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

結核は、我が国における主要な感染症の一つで、平成30年には国内で新たに15,590人が患者として登録され、2,204人が亡くなっています。結核罹患率は年々減少していますが、欧米諸国と比べて未だ高い状況です。川崎市では、平成30年の結核罹患率は12.9(人口10万対)と、前年(14.4)と比べて減少しているものの、全国(12.3)や神奈川県(11.2)よりやや高い状況にあります。

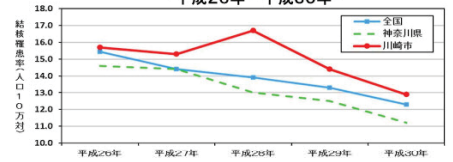
結核の症状は特徴的なものがないため、特に高齢者では気付かないうちに進行してしまうことがあります。長引く咳などがみられた際は、早めに医療機関を受診し、「いつもと違うところ」を主治医に伝えましょう。

諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米 国	2.7	2017
デンマーク	4.4	2017
オランダ	4.6	2017
カナダ	4.9	2017
スウェーデン	4.9	2017
オーストラリア	5.9	2017
イタリア	6.4	2017
ドイツ	6.5	2017
フランス	7.4	2017
英 国	7.9	2017
日 本	12.3	2017
シンガポール	41	2017
中 国	55	2017
韓 国	66	2017
ベトナム	108	2017
タイ	116	2017
インドネシア	167	2017
フィリピン	302	2017

WHO(世界保健機関)の集計より

全国、神奈川県、川崎市における結核罹患率の年次推移
～平成26年～平成30年～



このようなことに心当たりはありますか？

- ☐ たんのかむや咳が2週間以上続いている
- ☐ 微熱・身体のだるさが2週間以上続いている

ひとつでもチェックが入った“その時”は、結核の可能性がります。

川崎市
KAWASAKI CITY

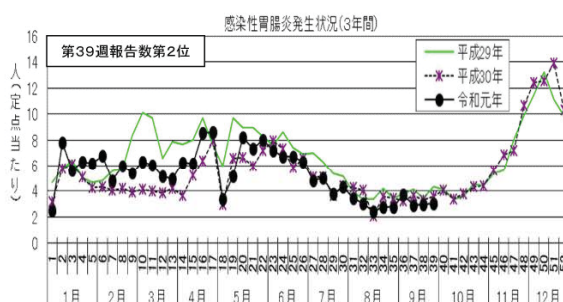
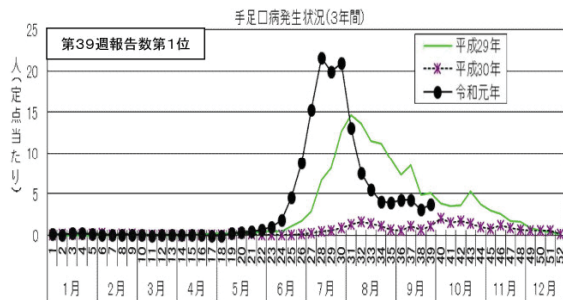
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年9月23日(月)～令和元年9月29日(日)〔令和元年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
手足口病の定点当たり患者報告数は3.75人と前週(3.08人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.03人と前週(2.94人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.17人と前週(2.08人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

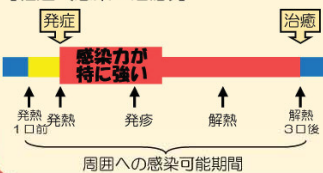


川崎市内で「はしか」が発生しました！

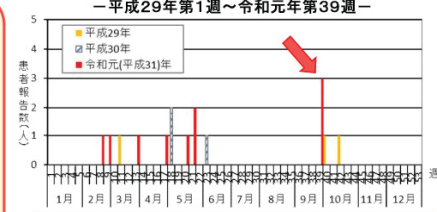
川崎市では、令和元年第39週(9月23日～9月29日)に麻疹の報告が3件ありました。近隣の自治体においても、麻疹の発生がみられています。麻疹の感染や重症化を防ぐため、定期予防接種の対象者は早めに接種を済ませましょう。また、麻疹の罹患歴やワクチン接種歴がいずれもない方も予防接種を御検討ください。

麻疹とは？

- 【感染経路】 空気感染、飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】 7～18日間(最長21日程度)
- 【主な症状】 発熱、発疹、咳、鼻汁、結膜充血など
- 【経過(感染～治癒)】



川崎市における麻疹発生状況
～平成29年第1週～令和元年第39週～



麻疹・風しん(MR)定期予防接種の対象者

- 【第1期】 生後12月から生後24月までの間にある者
- 【第2期】 小学校入学前の年度1年間(4月1日～翌年3月31日)

麻疹は、発症の1日前から発熱後3日まで周囲への感染力があります。麻疹に感染した疑いがある場合には、事前に電話で症状や麻疹患者との接触歴などを医療機関に伝え、受診の際は母子健康手帳や接種証明書などでワクチン接種歴を確認し、必ず主治医に伝えてください。

川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年9月30日（月）～令和元年10月6日（日）〔令和元年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.62人と前週（3.03人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（3.75人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.19人と前週（2.17人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



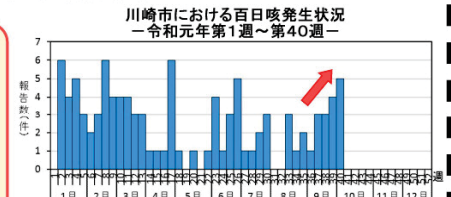
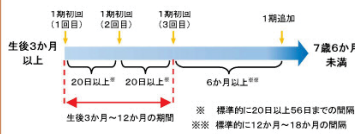
百日咳の地域的な流行がみられます！

川崎市では、令和元年第37週（9月23日～9月29日）以降、百日咳の報告数が増加しています。令和元年第40週（9月30日～10月6日）の患者報告数は5件で、特に中原区からの報告が多くみられました。昨年と同様に、5～9歳が多く、いずれも4回のワクチン接種歴がありました。百日咳は乳児が罹患すると重症化しやすく、死亡する場合もあります。定期接種対象のお子さんは必ず接種を受けてください。

百日咳とは？

【感染経路】
飛沫感染、接触感染
【潜伏期間】
6～20日間（通常7～10日間）
【主な症状】
風邪症状で始まり、長く続く咳に加え、短く激しい咳が連続して起こり、笛のような音が出る咳発作がみられます。
※乳児では無呼吸発作やチアノーゼ、けいれんなどがみられたり、肺炎や脳症などの合併症を起こす場合もあります。

百日咳定期予防接種のスケジュール



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年10月7日（月）～令和元年10月13日（日）〔令和元年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.32人と前週（3.62人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は2.84人と前週（3.49人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.49人と前週（3.19人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



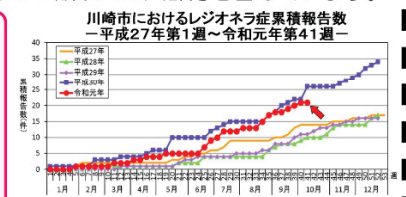
知っていますか？～レジオネラ症～

レジオネラ症は、水中や土壌中など自然界に広く生息しているレジオネラ属菌を原因とする感染症で、肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と一過性の感冒様症状を呈し自然治癒するポンティアック熱の2つの病型があります。肺炎を発症すると急激に重症化することもあり、特に大酒家、喫煙者、免疫機能が低下した方などはリスクが高いとされています。

川崎市では、令和元年第41週（10月7日～10月13日）までに計21件の報告があり、過去10年間で最多の報告数であった昨年と同程度で推移しています。男性の割合が高く、年齢階級別では60歳以上が大部分を占めています。

レジオネラ症とは？

【潜伏期間】
レジオネラ肺炎
2～10日間
ポンティアック熱
1～2日間
【主な症状】
レジオネラ肺炎
発熱、咳、呼吸困難、下痢、意識障害など
ポンティアック熱
突然の発熱、インフルエンザ様症状など
【感染経路】
レジオネラ属菌に汚染されたエアロソール（空気中に浮遊している粒子）を吸い込むことにより感染
※人から人に感染することはありません。
※浴槽のお湯や加湿器の水などは新しいものを使用し、清潔を保ちましょう。また、高圧洗浄など、エアロソールが発生する作業ではマスクを着用しましょう。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年10月14日（月）～令和元年10月20日（日）〔令和元年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.38人と前週（3.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.33人と前週（1.33人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（2.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



災害に伴う感染症に御注意ください！

台風19号による記録的な大雨の影響で、川崎市内でも浸水などの被害が出ております。災害に伴う感染症として、がれきや汚泥の撤去作業に関連して発症するレジオネラ症やレプトスピラ症、作業中の怪我による破傷風の発症などに注意が必要です。片付け作業を行う際はマスクや手袋、長靴等を適切に装着するように心掛けてください。

また、基本的な定期予防接種を早めに受けてインフルエンザ等を予防するとともに、冬場に向けてノロウイルスによる胃腸炎等にも注意しましょう。

避難所等で注意すべき感染症

災害時には様々な感染症が発生もしくは流行することがあります。以下の感染症には十分御注意ください。

- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎
- 麻疹
- 風しん
- 破傷風
- 創傷関連皮膚・軟部組織感染症
- レジオネラ症
- ダニ関連感染症
- レプトスピラ症
- 結核
- 百日咳



浸水した家屋の感染症対策

- 感染症予防のためには、清掃と乾燥が最も重要です。清掃が不十分だと、消毒の効果を発揮できません！
- 屋外（床下や庭）の消毒は原則不要です。

【消毒の手順】

- 1 消毒の前に十分清掃しましょう！
 - ① ゴーグル・マスクを着用
 - ② 手袋・底の厚い靴などを着用
 - ③ ドアと窓をあけて、しっかり換気
 - ④ 汚泥は十分に取り除き、しっかり乾燥
- 2 消毒

ゴム手袋・長靴、ゴーグル等を着用し、適切な濃度の消毒薬を使用
- 3 清掃・消毒作業終了後
 - ① しっかり手洗い
 - ② ケガをした場合はしっかり洗浄、消毒
 - ③ 深い傷や汚れた傷、目を洗浄しても充血する場合は医師に相談
 - ④ 消毒薬の使用後は、よく乾燥



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年10月21日（月）～令和元年10月27日（日）〔令和元年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.92人と前週（3.38人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.54人と前週（2.08人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は2.19人と前週（1.97人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



高齢者対象のインフルエンザ定期接種実施中

川崎市における令和元年第43週（10月21日～10月27日）のインフルエンザの定点当たり報告数は0.90人となり、第39週（9月23日～9月29日）以降4週連続で増加しています。流行開始の目安である定点当たり1.0人は超えていないものの、市内の複数の小学校で学級閉鎖も報告されており、流行期入りが近いと考えられます。

インフルエンザは高齢の方が感染した場合、重症化の懸念があるため、早めのワクチン接種を心掛けてください。

高齢者を対象とした定期のインフルエンザ予防接種

<対象となる方>

川崎市内にお住まいの方で、次の①または②に当てはまる方

- ① 接種日に満65歳以上の方
- ② 接種日に満60歳～65歳未満の方
 - 心臓、腎臓、呼吸器の機能障害（障害1級程度）のある方
 - ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害（障害1級程度）のある方

接種の際は、住所及び年齢を確認できるもの（健康保険証等）をお持ちください。

<実施期間と回数>

令和元年10月1日～12月31日の間に1回

<接種を受けられる場所>

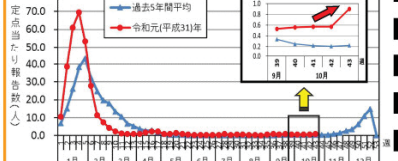
川崎市予防接種個別協力医療機関（市が指定した市内約600か所の医療機関）

<自己負担金>

2,300円（接種を受けた医療機関にお支払いください。）

川崎市におけるインフルエンザ発生状況

— 令和元（平成31）年と過去5年間平均の比較 —



今シーズンのワクチンについて

今シーズンのワクチンは、A型2種類、B型2種類の計4種類が含まれています。

- A/H1N1亜型（2009年以降の流行株）
 - A/H3N2亜型（いわゆるA香港型）
 - B型（山形系統）
 - B型（ビクトリア系統）
- ※ A/H1N1亜型及びA/H3N2亜型のワクチン株は、昨年度と異なります。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年10月28日（月）～令和元年11月3日（日）〔令和元年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（2.92人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.76人と前週（2.54人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
手足口病の定点当たり患者報告数は1.95人と前週（2.19人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★インフルエンザウイルス★
インフルくん



インフルエンザが流行期に入りました！

季節性インフルエンザの流行は、例年11月～12月頃に始まりますが、今年は、全国と同様に首都圏においても比較的早い時期からインフルエンザの報告数が増加しています。

川崎市では、令和元年第44週（10月28日～11月3日）の定点当たり患者報告数が1.48人となり、流行開始の目安である定点当たり1.00人を超え、過去5年平均と比べて3週間早く流行期に入りました。多摩区及び麻生区の小学校ではインフルエンザによる学級閉鎖もみられています。

感染を予防するために、手洗いや咳エチケットなどを心掛けるとともに、インフルエンザワクチンの接種も御検討ください。

インフルエンザとは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

1～3日間

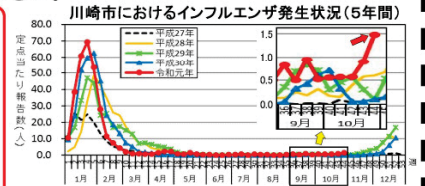
【主な症状】

発熱（通常38℃以上）、頭痛、咳、鼻汁、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛など

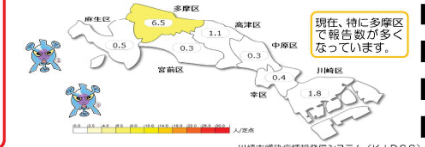
【予防方法】

- ・ワクチン接種
- ・咳エチケット※
- ・手洗いの徹底
- ・適度な湿度の保持
- ・十分な栄養とバランスのとれた食事
- ・人混みや繁華街への外出を控える

※感染を避けるために、咳・しゃべりの際にマスク、ティッシュ・ハンカチ、袖を使って口や鼻をおさえることです。



川崎市におけるインフルエンザ発生状況（5年間）



川崎市におけるインフルエンザ分布マップ（第44週）

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年11月4日（月）～令和元年11月10日（日）〔令和元年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.27人と前週（3.49人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.03人と前週（2.76人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週（1.78人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告数が急増しました！

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌の感染によって引き起こされる感染症です。突発的な四肢の痛み・腫れ、発熱、咽頭炎などから始まり、発病すると急速に症状が重篤化し、多臓器不全やショック状態から死に至ることもあります。

川崎市における報告数は例年10件以下でしたが、令和元年は第45週（11月4日～11月10日）に4件の報告があり、累積報告数も15件と過去10年間で最多となりました。理由は不明ですが、男性の報告が非常に多く全体の80%を占めています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

【感染経路】

創傷感染、上気道感染、手術部位感染など

【主な症状】

＜初期症状＞
四肢の痛み・腫れ、発熱、咽頭炎、血圧低下など

＜発病後数時間以内＞
ショック、播種性血管内凝固症候群（DIC）、軟部組織壊死、急性腎不全、多臓器不全など

【好発年齢】

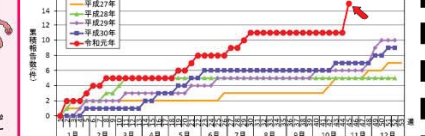
30歳代以上

【治療】

抗菌薬治療、病変部の切除など

※症状の進行が早いので、早期発見・早期治療が重要です。

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症累積報告数
—平成27年第1週～令和元年第45週—



川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症男女別発生状況—令和元年第1週～第45週—



通常は害の存在しない組織（血液、筋肉など）に、傷口などから溶血性レンサ球菌が侵入することによって、急激に症状が悪化します。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250